

科目名	薬理学3			ナンバリング	PHA161	授業形態	講義
対象学年	3	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	林正彦	担当教員	林正彦○、平藤雅彦、藤原博典				

授業の概要	免疫機能、呼吸器、炎症・抗アレルギー、消化器、血液・造血、感覚器、代謝系等の疾患を理解し、治療に用いる薬物の薬理作用、作用点、作用機序、相互作用等に関する知識を身につける事を目的とする。						
到達目標	泌尿器、呼吸器、炎症・抗アレルギー、消化器、血液・造血、眼、代謝系等の疾患治療薬について、薬理作用、作用機序、相互作用、使用上の注意などについて説明できる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	1 講義内では教科書の内容補足として、プリントを配布する。講義内容のまとめ方の参考にすること。 2 講義内容を復習できるよう演習問題を添付する。演習問題は、講義や自習で学習したことがどのような形で問われるか、どのように考えたらよいか、という問題解決力を養うためのものであるから、必ず自分で解答すること。						
ディプロマポリシーとの関連	【薬学部薬学科のディプロマポリシー】						
		1. 薬剤師の社会的義務を認識し、医療の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を具現できる。					
	○	2. 医療分野における問題点を発見して解決するために、研究マインドと知識を統合・活用する力を有する。					
		3. 患者本位の医療を実施するために、チーム医療における円滑なコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 地域の医療および保健に貢献するために、薬剤師としての実践的能力を有する。					
	○	5. 薬剤師として科学と医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学習ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
代表的な炎症・アレルギー疾患治療薬、呼吸器疾患(喘息、COPD等)治療薬、消化器疾患(潰瘍、クローン病、肝臓、膵臓)治療薬、を挙げ、血液・造血系疾患(凝固、血小板凝集、DIC、貧血等)治療薬、眼疾患(緑内障、網膜症、白内障)治療薬、代謝系疾患(糖尿病、脂質異常症、骨粗鬆症、高尿酸血症等)治療薬を挙げ、その薬理作用、作用機序などについて説明できる。	炎症・アレルギー疾患治療薬、呼吸器疾患(喘息、COPD等)治療薬、消化器疾患(潰瘍、クローン病、肝臓、膵臓)治療薬、を挙げ、血液・造血系疾患(凝固、血小板凝集、DIC、貧血等)治療薬、眼疾患(緑内障、網膜症、白内障)治療薬、代謝系疾患(糖尿病、脂質異常症、骨粗鬆症、高尿酸血症等)治療薬を複数挙げ、その薬理作用、作用機序、構造式、副作用、臨床応用などについて説明できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○	○					90%
小テスト・授業内レポート	○	○					10%
宿題・授業外レポート	○	○					加点はしない。提出しなければ減点。
授業態度・授業への参加							

課題、評価のフィードバック	講義中もしくは講義前に、前回講義内容に関する小テストを行う。テスト結果は採点・解説し、学習支援システムmanabにて開示する。解答用紙は、要請があればいつでも開示できるよう準備している。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	抗炎症・免疫抑制薬-①	炎症を説明し、抗炎症薬(ステロイド、非ステロイド)の薬理作用、作用機序について解説する。講義で使用する資料やプリントが「学修支援システム」に保存している場合があるので、必ずチェックし、持参すること。	SBO; E2-(2)-①-1～3 SBO;E2-(1)-②-2 (担当: 村田)
	第2回	抗炎症・免疫抑制薬-②	免疫システムを説明し、免疫抑制・賦活薬の薬理作用、作用機序について解説する。講義で使用する資料やプリントが「学修支援システム」に保存している場合があるので、必ずチェックし、持参すること。	SBO;E2-(2)-①-1～3 SBO;E2-(1)-②-2 (担当: 村田)
	第3回	呼吸器・抗アレルギー薬-①	喘息、COPD等の発症機序を示し、喘息治療薬・抗アレルギー薬・去痰薬の薬理作用、作用機序を解説する。講義で使用する資料やプリントが「学修支援システム」に保存しているので、必ずチェックし、持参すること。	SBO;E2-(1)-②-1～3 SBO;E2-(4)-①-1 (担当: 村田)
	第4回	呼吸器・抗アレルギー薬-②	アレルギー等の発症機序を示し、喘息治療薬・抗アレルギー薬・去痰薬の薬理作用、作用機序を解説する。講義で使用する資料やプリントが「学修支援システム」に保存しているので、必ずチェックし、持参すること。	SBO;E2-(1)-②-1～3 SBO;E2-(4)-①-1 (担当: 村田)
	第5回	まとめ 演習1	第1～4回までの講義に対するまとめの演習試験を行う。第1～4回までの講義内容についてよく復習しておくこと。	
	第6回	消化器作用薬①(胃に作用する薬物)	健胃消化薬、催吐剤、制吐剤の薬理作用、作用機序について解説する。講義で使用する資料やプリントが「学修支援システム」に保存してあるので、必ずチェックし、持参すること。	SBO;E2-(4)-②-1,8 (担当: 松本)
	第7回	消化器作用薬②(上部消化管疾患治療薬)	胃炎・消化性潰瘍治療薬の薬理作用、作用機序について解説する。講義で使用する資料やプリントが「学修支援システム」に保存してあるので、必ずチェックし、持参すること。	SBO;E2-(4)-②-1,2,3 (担当: 松本)
	第8回	血液・造血管作用薬①(抗血栓薬)	止血システムや貧血などを示し、止血薬・抗凝固薬・造血薬の薬理作用、作用機序について解説する。講義で使用する資料やプリントが「学修支援システム」に保存しているので、必ずチェックし、持参すること。	SBO;E2-(3)-②-1～4 (担当: 松本)
	第9回	血液・造血管作用薬②(造血薬)	止血システムや貧血などを示し、止血薬・抗凝固薬・造血薬の薬理作用、作用機序について解説する。講義で使用する資料やプリントが「学修支援システム」に保存しているので、必ずチェックし、持参すること。	SBO;E2-(6)-①-1～3 (担当: 松本)
	第10回	感覚器疾患薬	眼疾患について説明し、緑内障・白内障治療薬の薬理作用、作用機序について解説する。講義で使用する資料やプリントが「学修支援システム」に保存しているので、必ずチェックし、持参すること。	SBO;E2-(6)-①-1～3 (担当: 松本)
	第11回	代謝・内分泌疾患治療薬①(糖尿病)	糖尿病について説明し糖尿病治療薬の薬理作用、作用機序について解説する。講義で使用する資料やプリントが「学修支援システム」に保存しているので、必ずチェックし、持参すること。	SBO;E2-(5)-①-1 (担当: 林)
	第12回	代謝・内分泌疾患治療薬②(脂質異常症)	脂質代謝や脂質異常症について説明し、脂質異常症治療薬の薬理作用、作用機序について解説する。講義で使用する資料やプリントが「学修支援システム」に保存しているので、必ずチェックし、持参すること。	SBO;E2-(5)-①-2 (担当: 林)
	第13回	代謝・内分泌疾患治療薬③(高尿酸血症)	高尿酸血症(痛風)について説明し、高尿酸治療薬の薬理作用、作用機序について解説する。講義で使用する資料やプリントが「学修支援システム」に保存しているので、必ずチェックし、持参すること。	SBO;E2-(5)-①-3 (担当: 林)
	第14回	代謝・内分泌疾患治療薬④(甲状腺機能異常)	甲状腺疾患について説明し、甲状腺ホルモン産生抑制或いは合成薬の薬理作用、作用機序について解説する。講義で使用する資料やプリントが「学修支援システム」に保存しているので、必ずチェックし、持参すること。	SBO;E2-(5)-②-2,3 (担当: 林)
	第15回	代謝・内分泌疾患治療薬⑤(骨粗鬆症・関節リウマチ)	骨疾患について説明し、骨粗鬆症治療薬や関節リウマチ治療薬の薬理作用、作用機序について解説する。講義で使用する資料やプリントが「学修支援システム」に保存しているので、必ずチェックし、持参すること。	SBO;E2-(2)-③-1～3 (担当: 林)
	試験	講義毎の小テスト、まとめ演習1, 2ならびに期末試験を実施する。期末試験は全範囲を対象に実施する。配布している演習問題ならびに講義プリントを参照すること。60点未満の不合格者は、再度復習して再試験に備えること。再試験は全範囲を対象とし、それ以後の試験は実施しない。		
授業の進め方		講義とそれに対する質疑応答とする。 講義では教科書の内容補足として、プリントを配布するので講義内容のまとめ方の参考にすること。講義内容の復習のため演習問題を添付する。		
授業外学習の指示		講義を聴いただけで理解したつもりにならないこと。配付資料、特に治療薬マップや作用機序は、配付資料を見ないで書けるようになること。添付している演習問題をその日のうちに解くこと。出来なかったところはその日のうちに調べる。継続して学習することが重要であり、見ただけで理解したつもりになら無いようにすること。 (授業外学習時間: 毎週 120 分)		

教科書	パートナー薬理学 改訂第2版(重信弘毅、石井邦雄、南江道)6,300円 ISBN978-4-524-40297-7 C3047
参考書	参考書: はじめの一步のイラスト薬理学(石井邦雄著、羊土社)2,900円 ISBN978-4-7581-2045-6 C3047 図解薬理学(鍋島俊隆、井上和秀、南山堂)8800円 ISBN978-4-525-72061-2
参考URLなど	薬理学は薬物治療、臨床への基礎となる重要な科目ですので、予習復習を実践し理解を深めること。
その他	5. 基礎的な科学力、8. 研究能力 アドバンスト5%、大学独自10%